

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200106		
法人名	社会福祉法人 野菊の里		
事業所名	グループホームのぎく「かがやきの里」かみみね		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字前牟田1896番地1		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年11月8日	外部評価確定日	令和3年12月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同一法人に特別養護老人ホーム、デイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、介護老人保健施設があり、協力関係がある。特に本部である特別養護老人ホームは同一敷地内にあり、緊急時の応援体制が整っている。</p> <p>現在、新型コロナウイルス感染予防対策を重点的に行っている為、外出支援が中々できない状況であるが、入所者の方に楽しんで過ごして頂けるよう毎日の集団体操や個別レクリエーション、また、月1回以上のイベントをホーム内で行っている。</p> <p>生活機能向上連携加算を算定しており、希望者には月1回リハビリ指導員が来訪しており、作成された訓練メニューを毎日介護員が実施している。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者の思いである「利用者中心の生活」を実現するために、職員を大切することで笑顔でサービスを提供されている。職員は、利用者に共感すること、思いに寄り添うことをケアとして実践した結果、「利用者中心の生活」となっている。毎月の事業所研修以外にも法人研修に参加し、サービス向上に取り組み、接遇面の強化も図られている。家族が少しでも安心して頂けるように事業所独自の取り組みとして、3ヵ月毎に近況報告の書面と写真を郵送されている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に貼りだし、職員一人ひとりに理念が書かれたカードを配布しており、名札と一緒に持ち歩くようにしている。理念を意識して業務に当たっている。	玄関に貼りだし、職員一人ひとりに理念が書かれたカードを配布しており、名札と一緒に持ち歩くようにしている。理念を意識して業務に当たっている。	玄関や各ユニットに掲示され、いつでも確認できる環境となっている。また、会議で理解を深めることを目的に、理念に沿ったケアの方法を話し合い、統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染予防対策として、直接的なつきあいが出来ないが、近隣の方がボランティアで観賞用の菊の花を持って来て下さり、玄関に飾っていた。	現在、新型コロナウイルス感染予防対策として、直接的なつきあいが出来ないが、近隣の方がボランティアで観賞用の菊の花を持って来て下さり、玄関に飾っていた。	コロナ前は、回覧板を活用し、地域の方や近隣の事業所と一緒にゼンザイ会など、子供から大人まで参加できるイベントを開催されていた。コロナ禍においても菊を持ってきて頂き地域とのつながりが継続されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族には入居者の状態をこまめに報告し、認知症についても理解できるように説明を心掛けている。入居相談においてもグループホームの生活について、また、認知症の説明、症状における対応の説明を行っている。	ご家族には入居者の状態をこまめに報告し、認知症についても理解できるように説明を心掛けている。入居相談においてもグループホームの生活について、また、認知症の説明、症状における対応の説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、ほとんど書面会議での実施である。委員に郵送し、意見をハガキにて返信頂くようにしている。サービス向上に活かす他、新型コロナウイルス感染対策に対するの労いの言葉は職員のモチベーションの向上にもなった。	現在、ほとんど書面会議での実施である。委員に郵送し、意見をハガキにて返信頂くようにしている。サービス向上に活かす他、新型コロナウイルス感染対策に対するの労いの言葉は職員のモチベーションの向上にもなった。	現在は書面にて実施されているが、再開に向けて取り組まれている。事故報告やヒヤリハットなど細かい内容まで報告することで参加者からも運営に協力的な発言がある。参加できない家族には施設内で議事録を閲覧することが可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には上峰町役場職員、上峰町地域包括支援センターも委員として参加するようになっており、運営に関する報告は2ヶ月に1回実施している。何かあれば相談しており、協力関係が来ている。	運営推進会議には上峰町役場職員、上峰町地域包括支援センターも委員として参加するようになっており、運営に関する報告は2ヶ月に1回実施している。何かあれば相談しており、協力関係が来ている。	入所に関する相談があり、行政との関係性が構築されている。あんしん相談員の活用など外部の意見を取り入れ、施設運営に活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はしていない。身体拘束委員会や、身体拘束に関する研修を行っており、身体拘束の種類、弊害についての理解はできている。玄関は、防犯上夜間は施錠しているが、その他は開錠している。スピーチロックについても注意している。	現在身体拘束はしていない。身体拘束委員会や、身体拘束に関する研修を行っており、身体拘束の種類、弊害についての理解はできている。玄関は、防犯上夜間は施錠しているが、その他は開錠している。スピーチロックについても注意している。	契約時から家族に身体拘束を行わない旨を説明される。もし、身体拘束が必要となった場合は家族に説明し、定期的な見直しを行い、身体拘束が改善できるように努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会や、虐待に関する研修会を行っており、不適切なケアやグレーゾーン含め、虐待の理解を深め、防止を徹底している。毎年の虐待の芽チェックリストも意識付けに繋がっている。	虐待防止委員会や、虐待に関する研修会を行っており、不適切なケアやグレーゾーン含め、虐待の理解を深め、防止を徹底している。毎年の虐待の芽チェックリストも意識付けに繋がっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、社会福祉士の資格所有職員が2名おり、権利擁護に関する理解はある程度はあると考える。また、保佐人を利用されている入居者も1名いる為、成年後見制度を理解・活用する機会ともなっている。	現在、社会福祉士の資格所有職員が2名おり、権利擁護に関する理解はある程度はあると考える。また、保佐人を利用されている入居者も1名いる為、成年後見制度を理解・活用する機会ともなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんだが、料金改定時や、管理者の変更などあれば、その都度ご家族に分かりやすいように説明し、必要時は同意書にサインを頂いている。	契約時はもちろんだが、料金改定時や、管理者の変更などあれば、その都度ご家族に分かりやすいように説明し、必要時は同意書にサインを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しているが、現在面会制限中であり、その中に入っていることはない。 面会時や電話連絡時、また、ホームページから意見が出る。現在は、面会に関しての意見が多い。その時々々の状況をきちんと説明し、出来る事出来ない事を理解して頂いたり、反映出来ることは反映するよう努めている。 出た意見に関しては職員間で共有するようにしている。	玄関にご意見箱を設置しているが、現在面会制限中であり、その中に入っていることはない。 面会時や電話連絡時、また、ホームページから意見が出る。現在は、面会に関しての意見が多い。その時々々の状況をきちんと説明し、出来る事出来ない事を理解して頂いたり、反映出来ることは反映するよう努めている。 出た意見に関しては職員間で共有するようにしている。	ホームページの意見には、家族に連絡を行い、真摯に向き合い対応をされる。匿名の場合は対応策を掲示するなどして信頼関係を構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアでの会議と、1・2階合同の会議を毎月行っており、その中で意見を言える機会を作っている。 設備等に関してはその中で意見が出る事が多く、反映すべき点は反映している。 有給取得や人員配置などに関しては各々で相談にくる事が多い。	各フロアでの会議と、1・2階合同の会議を毎月行っており、その中で意見を言える機会を作っている。 設備等に関してはその中で意見が出る事が多く、反映すべき点は反映している。 有給取得や人員配置などに関しては各々で相談にくる事が多い。	日常の業務の中で、管理者や役職者が職員と話し意見を集約されている。悩みなども相談しやすく働きやすい環境を整備されている。事業所の全体会議には、本部の職員も参加される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、昇級等に活かしている。また、毎年適正申告書の提出をするようになっており、職場に対する意見や、異動の希望などが言える機会になっている。	人事考課制度があり、昇級等に活かしている。また、毎年適正申告書の提出をするようになっており、職場に対する意見や、異動の希望などが言える機会になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員や異動職員に関しては、研修を行い、円滑に業務に当たれるようにしている。能力に応じ、研修期間を延長することもある。また、施設内外への研修も積極的に参加しているが、新型コロナウイルス流行後は施設外研修は殆ど出来ない。	新任職員や異動職員に関しては、研修を行い、円滑に業務に当たれるようにしている。能力に応じ、研修期間を延長することもある。また、施設内外への研修も積極的に参加しているが、新型コロナウイルス流行後は施設外研修は殆ど出来ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や施設外研修への参加にて、勉強やネットワーク形成に繋がっている。 また、法人内他事業所スタッフ(同業者)とは、委員会や入居者の入退所支援で関わることも多い。	地域ケア会議や施設外研修への参加にて、勉強やネットワーク形成に繋がっている。 また、法人内他事業所スタッフ(同業者)とは、委員会や入居者の入退所支援で関わることも多い。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず事前調査をし、入居時になるべく過ごしやすい環境を作るようにしている。また、入居時は、出来るだけ多くコミュニケーションを図り、不安の軽減、信頼関係の構築に努めている。また、担当制にしており、信頼関係を築きやすいようにしている。	入居前には、必ず事前調査をし、入居時になるべく過ごしやすい環境を作るようにしている。また、入居時は、出来るだけ多くコミュニケーションを図り、不安の軽減、信頼関係の構築に努めている。また、担当制にしており、信頼関係を築きやすいようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、困っている事や不安な事、要望などを聞くようにし、相談にのったり、解決策を考えている。入居後は、何かあれば管理者だけでなく他職員もいるからと、いつでも対応する事をお伝えし、不安の軽減、信頼関係の構築に努めている。	入居相談時から、困っている事や不安な事、要望などを聞くようにし、相談にのったり、解決策を考えている。入居後は、何かあれば管理者だけでなく他職員もいるからと、いつでも対応する事をお伝えし、不安の軽減、信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、必ずご家族へ連絡し、本人へ事前調査をした上で、調査票を作成。その情報から、過ごしやすい環境や、必要なサービスを準備している。実際入居されてからも、随時ホームでの生活に必要な支援を検討し、提供している。	入居前には、必ずご家族へ連絡し、本人へ事前調査をした上で、調査票を作成。その情報から、過ごしやすい環境や、必要なサービスを準備している。実際入居されてからも、随時ホームでの生活に必要な支援を検討し、提供している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人本位の生活を重視して、過剰な介助にならないようプランを作成し、支援を行っている。入居者の方が、職員に何でも言いやすいよう、普段からコミュニケーションを多くし、家庭的な雰囲気を作り、関係が築けるように努めている。	本人本位の生活を重視して、過剰な介助にならないようプランを作成し、支援を行っている。入居者の方が、職員に何でも言いやすいよう、普段からコミュニケーションを多くし、家庭的な雰囲気を作り、関係が築けるように努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、ご家族の支援が必要である事を伝えており、また、状態をこまめに報告するようにしている。現在はホーム内に入る事を制限しているが、玄関越しの面会は可能であり、本人と話せるように配慮している。本人・家族間を大切に支援するよう努めている。	入居後も、ご家族の支援が必要である事を伝えており、また、状態をこまめに報告するようにしている。現在はホーム内に入る事を制限しているが、玄関越しの面会は可能であり、本人と話せるように配慮している。本人・家族間を大切に支援するよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も主治医の変更はしなくて良い。 現在は、外出も中々出来ないが、降車しないドライブで、入居者の方の自宅近隣を回ったことはあった。また、玄関越しでの面会を行っているが、人数や居住地に制限はしていないため、身元引受人だけでなく、孫等の親戚や近所の方が来られることもある。	入居後も主治医の変更はしなくて良い。 現在は、外出も中々出来ないが、降車しないドライブで、入居者の方の自宅近隣を回ったことはあった。また、玄関越しでの面会を行っているが、人数や居住地に制限はしていないため、身元引受人だけでなく、孫等の親戚や近所の方が来られることもある。	自由に外出できるが、現在はコロナ禍で制限をされている。訪問理容室などを活用し、ガラス越しの面会や手紙を郵送するなど、できることを創意工夫し、利用者の満足につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席は、会話がしやすいような方同士を同じテーブルにしている。 また、毎日集団レクリエーションや体操を行っており、月1回は1・2階合同のイベントを行い、多くの方と関わる機会を作っている。	リビングでの席は、会話がしやすいような方同士を同じテーブルにしている。 また、毎日集団レクリエーションや体操を行っており、月1回は1・2階合同のイベントを行い、多くの方と関わる機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、必要に応じて連絡を行い、今後の生活に対して、介護サービスに関して等相談に乗ったり、支援する事もある。 また、再入居される方も多い。	退居後も、必要に応じて連絡を行い、今後の生活に対して、介護サービスに関して等相談に乗ったり、支援する事もある。 また、再入居される方も多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネージャーは、計画作成時に、入居者に希望や意向をマンツーマンで聞く機会を取っている。意思疎通が難しい方にも、普段の生活や表情等を把握するように心がけ、意向を汲み取れるよう努めている。他職員も普段からコミュニケーションを心掛けており、必要時はケアマネージャーに伝え、本人が、思いや意向を反映した生活を送れるよう支援している。	ケアマネージャーは、計画作成時に、入居者に希望や意向をマンツーマンで聞く機会を取っている。意思疎通が難しい方にも、普段の生活や表情等を把握するように心がけ、意向を汲み取れるよう努めている。他職員も普段からコミュニケーションを心掛けており、必要時はケアマネージャーに伝え、本人が、思いや意向を反映した生活を送れるよう支援している。	普段のコミュニケーションを大切にしており、意見を汲み取っている。得た情報は職員間で共有してケアへ反映するよう取り組まれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査には本人に、契約時にはご家族にお聞きし、できるだけの情報収集を行っている。また、入居前に介護サービスを利用していた方には、これまでの担当ケアマネージャーにも確認している。	入居前の事前調査には本人に、契約時にはご家族にお聞きし、できるだけの情報収集を行っている。また、入居前に介護サービスを利用していた方には、これまでの担当ケアマネージャーにも確認している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけこまかく日々の記録を行うようにしており、毎月のケース検討会議にて職員間で現状の把握の共通認識に努めている。 状態急変等あれば、申し送りノートを活用したり、口頭での伝達も行っている。	できるだけこまかく日々の記録を行うようにしており、毎月のケース検討会議にて職員間で現状の把握の共通認識に努めている。 状態急変等あれば、申し送りノートを活用したり、口頭での伝達も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向の把握、現状を把握し、課題を抽出、プラン作成に繋げている。現在、サービス担当者会議は職員で行っているが、ご家族には面会時や電話連絡で説明、了解を得ている。	ご本人・ご家族の意向の把握、現状を把握し、課題を抽出、プラン作成に繋げている。現在、サービス担当者会議は職員で行っているが、ご家族には面会時や電話連絡で説明、了解を得ている。	ケアマネージャーが3か月ごとにモニタリングを行っている。また、毎月のカンファレンスでは、担当の介護職員とともにケアの方向性を話し合われている。立案された介護計画はケアマネージャーより可能な限り家族へ直接説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はなるべくこまかく、いつ、何をされているか、その時どんな言動があったかを記載するようにしている。内服に関しても変更あれば記録するようにし、状態把握・プラン見直しに繋げている。	記録はなるべくこまかく、いつ、何をされているか、その時どんな言動があったかを記載するようにしている。内服に関しても変更あれば記録するようにし、状態把握・プラン見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に沿った対応を心掛けており、原則ご家族対応の受診でも、送迎のみをホームで対応したり、受診そのものを対応する事もある。日用品の準備もホームで行うこともある。また、その人にとってはより良い生活になると判断すれば他事業所を紹介・提案することもある。	状況に沿った対応を心掛けており、原則ご家族対応の受診でも、送迎のみをホームで対応したり、受診そのものを対応する事もある。日用品の準備もホームで行うこともある。また、その人にとってはより良い生活になると判断すれば他事業所を紹介・提案することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、1名の入居者の方で、シルバー人材に受診の付き添い対応を依頼されている方がいる。その他にも、希望や必要性に応じて福祉タクシーや図書館などの活用も行うようにしているが、現在は新型コロナウイルス感染対策の為、活用できていない。	現在、1名の入居者の方で、シルバー人材に受診の付き添い対応を依頼されている方がいる。その他にも、希望や必要性に応じて福祉タクシーや図書館などの活用も行うようにしているが、現在は新型コロナウイルス感染対策の為、活用できていない。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F )	自己評価／ユニットB( 2F )	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している	入居時にこれまでの主治医を、ホ ームの協力医療機関に変更する必要 はない為、一人ひとり主治医は異なる。 受診は原則ご家族対応、往診 はホームで職員対応としているが、 受診であっても往診であっても、状 況報告書を作成し、適切な医療を 受けられるように支援している。	入居時にこれまでの主治医を、ホ ームの協力医療機関に変更する必要 はない為、一人ひとり主治医は異なる。 受診は原則ご家族対応、往診 はホームで職員対応としているが、 受診であっても往診であっても、状 況報告書を作成し、適切な医療を 受けられるように支援している。	かかりつけ医を継続することが可 能。協力医療機関からは月に2回の 往診があり、健康管理に努められ ている。歯科の往診もあり、医療面 の環境も整備され、安心できる環境 である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	医療連携加算を算定しており、24時 間看護師に相談できる体制があ る。何かあればアドバイスをもらい、 受診の判断をしてもらっている。 また、特別養護老人ホームが併設 しており、ホーム内看護師不在時の 相談や、怪我の処置など協力して 頂いたり、医療関係備品の発注な どをもらっている。	医療連携加算を算定しており、24時 間看護師に相談できる体制があ る。何かあればアドバイスをもらい、 受診の判断をもらっている。 また、特別養護老人ホームが併設 しており、ホーム内看護師不在時の 相談や、怪我の処置など協力して 頂いたり、医療関係備品の発注な どをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。又は、そうした場合に備えて病院関 係者との関係づくりを行っている。	状態不良があれば、受診で済むよ う、また、入院しても早期に退院で きるよう、重度化する前に早めに受 診するように努めている。入院され れば、サマリーを作成し、また、病 院にこまめに状況確認行っている。	状態不良があれば、受診で済むよ う、また、入院しても早期に退院で きるよう、重度化する前に早めに受 診するように努めている。入院され れば、サマリーを作成し、また、病 院にこまめに状況確認行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の指針 を説明している。 実際に重度化された場合は、管理 者が状況説明を行い、ホームで出来 る対応などを改めて詳細に説明。 必要があれば主治医やケアマネ ジャーなども同席し、今後の生活及 び支援について検討する。	契約時に、重度化した場合の指針 を説明している。 実際に重度化された場合は、管理 者が状況説明を行い、ホームで出来 る対応などを改めて詳細に説明。 必要があれば主治医やケアマネ ジャーなども同席し、今後の生活及 び支援について検討する。	契約時より終末期の意向を確認さ れる。看取りの実績はあるが、医療 行為がある場合は困難となる。終 末期は、医療機関を希望される家 族が多い。	



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に関するマニュアルがあり、入職・異動時に説明している。また、随時研修、訓練を行っている。	急変や事故発生時に関するマニュアルがあり、入職・異動時に説明している。また、随時研修、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災及び災害マニュアル、連絡網がある。 避難訓練や災害訓練も行っており、避難方法を身につけている。 併設している特別養護老人ホームからの応援体制もあり、特別養護老人ホームに備蓄も整備している。 新型コロナウイルス感染減少すれば、地域住民の応援参加を依頼したい。	火災及び災害マニュアル、連絡網がある。 避難訓練や災害訓練も行っており、避難方法を身につけている。 併設している特別養護老人ホームからの応援体制もあり、特別養護老人ホームに備蓄も整備している。 新型コロナウイルス感染減少すれば、地域住民の応援参加を依頼したい。	事業所独自の防災計画もあり、法人との協力体制も整っている。火災訓練は年2回、自然災害を想定した訓練は年1回実施されている。今後は地域住民の方に訓練に参加してもらえるように取り組まれる予定。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修を行っている。 馴れ馴れしい言葉遣いに注意しつつ、その人に合った言葉かけ、目線を合わせた会話を心掛けている。 また、排泄や更衣時など、プライバシー侵害とならない対応を心掛けている。入居者の方の傍で申し送り等を行う際は、入居者名でなく、インシヤルで配慮することもある。	接遇についての研修を行っている。 馴れ馴れしい言葉遣いに注意しつつ、その人に合った言葉かけ、目線を合わせた会話を心掛けている。 また、排泄や更衣時など、プライバシー侵害とならない対応を心掛けている。入居者の方の傍で申し送り等を行う際は、入居者名でなく、インシヤルで配慮することもある。	居室で過ごされる際にはドアを閉めプライバシーに配慮されている。同性介護を希望された場合には、可能な限り応えられるように工夫し、対応される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアマネージャーが計画作成時に聞き取りを行うほかにも、介護員も普段の生活で「何がしたいか」「何が食べたいか」など、希望を伺っている。発言が少ない方にも自己決定しやすいよう開かれた質問だけでなく閉じた質問も活用している。	ケアマネージャーが計画作成時に聞き取りを行うほかにも、介護員も普段の生活で「何がしたいか」「何が食べたいか」など、希望を伺っている。発言が少ない方にも自己決定しやすいよう開かれた質問だけでなく閉じた質問も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務は、後回しにしてもいい所は融通を利かすようにし、臨機応変な対応を心掛けている。また、レクリエーションや体操、イベントなども無理強いしてまでの参加はしないようにしている。	職員側の業務は、後回しにしてもいい所は融通を利かすようにし、臨機応変な対応を心掛けている。また、レクリエーションや体操、イベントなども無理強いしてまでの参加はしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や、季節に合った希望の衣類を選ぶ支援をしたり、訪問整容を希望される方には理想の髪型を伝達するお手伝いをしている。また、化粧をされる方、肌のお手入れをされる方もいる。必要な場合は、化粧品をお預かりし、希望時に提供するようにし、安全に使用できるよう支援している。	毎日の整容や、季節に合った希望の衣類を選ぶ支援をしたり、訪問整容を希望される方には理想の髪型を伝達するお手伝いをしている。また、化粧をされる方、肌のお手入れをされる方もいる。必要な場合は、化粧品をお預かりし、希望時に提供するようにし、安全に使用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、一緒に食事の準備や片付けができる方はいない。出来る方には、台拭きや消毒のお手伝いをして頂いている。 ただし、時々おやつ作りでたこ焼きやかき氷、チョコレートフォンデュなど、入居者の方が出来そうなメニューを考え、一緒に作っている。	現在、一緒に食事の準備や片付けができる方はいない。出来る方には、台拭きや消毒のお手伝いをして頂いている。 ただし、時々おやつ作りでたこ焼きやかき氷、チョコレートフォンデュなど、入居者の方が出来そうなメニューを考え、一緒に作っている。	隣接する特養にて準備され提供されている。管理栄養士の聞き取りにより利用者の意見も反映することは可能。常食以外にも、刻みはミキサーなどの形態も提供できる。レクリエーションの中でおやつ作りを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスを考え、献立作成し、本人に合った形態の食事を提供している。ホーム職員は、本人の食事・水分量を把握し、摂取量の少ない方には摂取して頂けるような声のかけ方や提供の仕方を工夫するようになっている。	管理栄養士が栄養バランスを考え、献立作成し、本人に合った形態の食事を提供している。ホーム職員は、本人の食事・水分量を把握し、摂取量の少ない方には摂取して頂けるような声のかけ方や提供の仕方を工夫するようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをするようにしており、自立されていない方はもちろん、ケアが不十分な方にも声をかけたり、磨き残しを介助をするようにしている。	毎食後、口腔ケアをするようにしており、自立されていない方はもちろん、ケアが不十分な方にも声をかけたり、磨き残しを介助をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、その人に合った時間の誘導に努めている為、入居時より、失禁が少なくなったり、パットのサイズが小さくなったりする方も多し。また、できるだけトイレで排泄して頂けるように、職員がいる時は2名介助で対応する事もある。	排泄パターンの把握に努め、その人に合った時間の誘導に努めている為、入居時より、失禁が少なくなったり、パットのサイズが小さくなったりする方も多し。また、できるだけトイレで排泄して頂けるように、職員がいる時は2名介助で対応する事もある。	入所時や状態に変化がある時は、1時間毎に誘導し、排泄パターンを把握するように努められている。夜間帯はポータブルトイレを使用することも可能。個々の状態に応じたケアを提供される。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘での悪影響については理解しており、水分量や乳製品の使用を調整したり、運動や腹部マッサージを促したりしている。主治医に相談し、緩下剤による排便コントロールを行っている方もいる。	便秘での悪影響については理解しており、水分量や乳製品の使用を調整したり、運動や腹部マッサージを促したりしている。主治医に相談し、緩下剤による排便コントロールを行っている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週2回以上である。14～16時の間の時間帯である事は決まっているが、曜日の固定はない。個浴とリフト浴があり、その方の状態に応じた入浴方法を行っている。シャンプー類は持ち込みとなっており、各々が好きなものを用意されている。	入浴は、週2回以上である。14～16時の間の時間帯である事は決まっているが、曜日の固定はない。個浴とリフト浴があり、その方の状態に応じた入浴方法を行っている。シャンプー類は持ち込みとなっており、各々が好きなものを用意されている。	リフト浴が整備され介助量が必要な方もお湯に浸かることが可能である。基本はマンツーマンで介助を行うが、介護度の高い方には2人介助で行い、安全に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に過ごされるように、室温・湿度管理を徹底し、夜間は、できるだけパジャマ更衣をして頂いている。日中午睡される方もいたり、就寝時間もその人によって異なる。希望される方にはポータブルトイレを準備したり、オムツを使用している。	快適に過ごされるように、室温・湿度管理を徹底し、夜間は、できるだけパジャマ更衣をして頂いている。日中午睡される方もいたり、就寝時間もその人によって異なる。希望される方にはポータブルトイレを準備したり、オムツを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての研修も行っており、目的や副作用について理解している。管理は職員がしており、薬剤情報をファイリングし、すぐに確認でき、配薬ミスや誤薬のないよう注意している。何かあれば、主治医や薬局に確認している。	服薬についての研修も行っており、目的や副作用について理解している。管理は職員がしており、薬剤情報をファイリングし、すぐに確認でき、配薬ミスや誤薬のないよう注意している。何かあれば、主治医や薬局に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の集団レクリエーションや体操だけでなく、個別学習や個別レクリエーションの支援も行っており、塗り絵や裁縫、パズルや計算プリントなどその人に合ったもの、好まれる事をされており、準備や環境作りの支援をしている。また、洗濯物たたみなどのお手伝いをされる方もいる。	毎日の集団レクリエーションや体操だけでなく、個別学習や個別レクリエーションの支援も行っており、塗り絵や裁縫、パズルや計算プリントなどその人に合ったもの、好まれる事をされており、準備や環境作りの支援をしている。また、洗濯物たたみなどのお手伝いをされる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為に中々出かけられないが、降車をしないドライブを数回行っており、最近では、ひまわりを見に行った。 新型コロナウイルスが終息すれば、希望の外出が出来るような支援をしたい。	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為に中々出かけられないが、降車をしないドライブを数回行っており、最近では、ひまわりを見に行った。 新型コロナウイルスが終息すれば、希望の外出が出来るような支援をしたい。	現在は敷地内のみ散歩をすることが可能。ドライブを実施しているが、新型コロナウイルス感染予防の観点より車内からの見学を基本としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はしていない。 入居者によっては、現金持参の方もいらっしゃるが、責任は負えないことを理解してもらったうえで持参されている。	金銭管理はしていない。 入居者によっては、現金持参の方もいらっしゃるが、責任は負えないことを理解してもらったうえで持参されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りの支援はしている。携帯電話を持参されている方もいるが、中には難聴だったり、操作が分からない方もおり、使用時にお手伝いしている。	電話や手紙のやり取りの支援はしている。携帯電話を持参されている方もいるが、中には難聴だったり、操作が分からない方もおり、使用時にお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 1F ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 2F ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度管理や環境整備に努めている。ブラインドでの採光調整や、換気・消毒も毎日行っている。また、廊下等に季節の飾りつけや、イベント写真を飾っている。	室温・湿度管理や環境整備に努めている。ブラインドでの採光調整や、換気・消毒も毎日行っている。また、廊下等に季節の飾りつけや、イベント写真を飾っている。	リビングには自然の光が差し込み明るく、行事の写真が飾られている。毎日職員が清掃していることで清潔感あるフロアで生活することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が同じテーブルになるよう配慮している。また、リビングにはソファがあり、ソファで寛がれる方もいたり、リビングの中でも時々自席でなく、お気に入りの他の場所に座られる方もいる。	気の合う入居者同士が同じテーブルになるよう配慮している。また、リビングにはソファがあり、ソファで寛がれる方もいたり、リビングの中でも時々自席でなく、お気に入りの他の場所に座られる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室であり、各自思い思いのものを持参されている。テレビや椅子などを持参されたり、使い慣れた毛布やタンスを持参されている。家具等の配置は、本人様と協議して使い勝手のいいように設置している。	全室個室であり、各自思い思いのものを持参されている。テレビや椅子などを持参されたり、使い慣れた毛布やタンスを持参されている。家具等の配置は、本人様と協議して使い勝手のいいように設置している。	職員管理であればアルコール飲酒も可能である。煙草は隣接する特養で喫煙できる。火気、危険物以外は持ち込むことが可能で個々の落ち着ける空間を作り出すことが可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーであり、手すりが各所にあり、居室入り口にネームプレートを設置している。また、リビング席に記名したり、自室入り口の見えやすい位置にネームを貼り出したりして、場所が分かりやすいように配慮している。また、必要な方には起立バーを設置し、安全に移乗出来るようにしている。	建物内は、バリアフリーであり、手すりが各所にあり、居室入り口にネームプレートを設置している。また、リビング席に記名したり、自室入り口の見えやすい位置にネームを貼り出したりして、場所が分かりやすいように配慮している。また、必要な方には起立バーを設置し、安全に移乗出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)			1. ほぼ全ての利用者の
		○	○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)			1. 毎日ある
		○	○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
		○	○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。  (参考項目:9,10,19)			1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
		○	○	3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
		○	○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)			1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
		○	○	3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。  (参考項目:11,12)			1. ほぼ全ての職員が
		○	○	2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。			1. ほぼ全ての家族等が
		○	○	2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない